

## 平成 23 年度第 3 回神戸市保健医療審議会 保健医療連絡協議専門分科会（議事録）

日時：平成23年9月21日（水）午後1時30分～2時46分  
場所：神戸市役所 1 号館 14 階大会議室  
議題：病院開設許可事務に係る意見について  
・ 医療法人神甲会 隈病院（増床）  
・ 医療法人社団六心会 恒生病院（増床）  
・ （仮称）安伸病院（新設）※診療所→病院

議題 病院開設許可事務に係る意見について

事務局より、病院開設許可等事務に関する事前協議事務処理（資料 2）・病床整備（配分）（資料 3）の説明

### 【医療法人神甲会 隈病院】

開設者より資料 4 の説明

#### 〔質疑〕

- 分科会長  
増床される病床の機能はほかの病室と全く変わらないのか。
- 開設者  
そうである。
- 委員  
1 床の増床だが、看護師の採用を計画されているか。また教育研修において、ラダー等の甲状腺に関する知識を得るような仕組みはあるか。
- 開設者  
増床に伴う看護師増員は予定しておらず、現状を維持する考えである。教育研修は頻繁に行っており、年間計画を立て、看護師の勉強会を毎月行っている。また、外部研修にも積極的に参加させている。
- 委員  
甲状腺の専門治療を必要とする患者が増加しているという事だが、何か社会的な背景があるのか。
- 開設者  
頸部のエコー検診機が高性能化しているため、甲状腺がんを発見しやすくなってきているが、罹患患者数自体が増加しているわけではないと考える。しかしながら、患者が専門病院を選択する傾向が強くなっていること、また、内分泌分野を専門とする医師が減少していることから、甲状腺専門を標榜する当院の受診者は、増加していると思う。
- 分科会長  
甲状腺がんは、他の疾患を診るときに、偶然みつかる場合も多い。
- 開設者  
そのような形で発見され、当院で精密検査をされるケースが増えているが、当院では、小さながんであれば無理に切除せず、経過観察としている。
- 分科会長  
研修も熱心にされていると聞く。
- 開設者  
当院では、毎年 3 月に、「研究会」を開催しており、内外含め、約 500 人が参加する。また 2 月には、「神戸甲状腺診断セミナー」を開催しており、こちらは約 250 人が参加する。
- 委員  
貴院は連携をとられる際、他地域の専門診療所に患者を紹介されるのか、或いは、甲状腺部分は担当しながら、地域の診療所に返されることが多いのか。
- 開設者  
基本的には、御紹介元へお返しする、或いは、地域の医療機関にお任せしたいと考える。しかしながら、甲状腺治療は検査も多く、また、投薬が難しい。一步誤れば肝炎を発症する危険性もある、副作用の大きい薬を処方するため、一貫して当院で対応するパターンが多い。また、検査についても、当院で

受診いただければ速やかに結果をお返しできるが、外部の検査センターを受検されると、結果判明まで時間がかかり、患者の負担も大きくなるため、全て当院で見てほしいと紹介される診療所も多い。当院としては、出来るだけ紹介元に多くを担って頂きたいと考えるが、難しい問題と考えている。

## 【医療法人社団六心会 恒生病院】

### 開設者より資料5の説明

#### 〔質疑〕

##### ● 副分科会長

貴院の理念、また、理事長の情熱には非常に感銘を受けており、期待している。北地区における脳外科の急性期・回復期リハビリテーションに対応され、多くの患者を自宅に戻していただけるよう、尽力をお願いしたい。

##### ● 委員

重度の脳卒中リハビリテーション患者を受け入れられるとの事だが、具体的にどの程度の症状の方々を受け入れられるのか。

##### ○ 開設者

重度のクモ膜下出血を発症され会話も困難という患者が、1年間ぐらいリハビリテーションし、会話が可能になり、元気になったという例があり、その様な症例への対応を考えている。現在の回復期リハビリテーション病床では、その様な患者に対応する病院は少なく、当院でも、最初から全く意識のない方をリハビリすることは不可能だが、重度でも見込みがあると判断した場合は積極的に受け入れたい。中央市民病院や、神戸大学医学部附属病院とも連携をとりたいと思う。

##### ● 委員

鹿児島大学病院・霧島リハビリテーションセンターなどでは、脳血管障害発症から結構時間が経過した患者を積極的に受け入れ、リハビリの工夫によって回復させている例があると聞いており、見込みがあるというのは説明どおりと思う。問題は、脳血管障害や心筋梗塞の発症に加え、糖尿病性の腎症で透析が必要な場合などで、そういう例は、今の神戸市の脳卒中連携では対応できていない。そのため、なかなか受診する病院が見つからないという大きな問題があるが、その辺りはいかがお考えか。

##### ○ 開設者

当院は透析施設がなく、難しい症例である。例えば少し距離があるが、近くの真星病院などに透析をお任せしながらリハビリを行うという考えもあり得ると思うが・・・。

##### ● 委員

難しい質問に非常に誠実に答えて頂き、感謝する。その様な、極めて複雑なケースは検討が必要として、脳血管障害で重症な方の受け入れを目指すという点を評価したい。

##### ● 委員

准看護師のステップアップについての構想と、ST（言語聴覚士）の採用について伺いたい。

##### ○ 開設者

現在、看護師7名、准看護師20名の計画だが、この先増強し、最終的に合計30名～35名程度としたい。STについては一般病床で3名の採用があるが、回復期リハ病床でも採用予定である。

##### ● 委員

先日テレビの特設番組でリハビリテーション病院についてのドキュメンタリー番組が放映されたが、それによると、昨今ではリハビリテーションが大きく進歩していると聞く。今までは医学的に諦められていたような分野でも、回復する可能性が大きくなっているのか。

##### ○ 開設者

そのとおりである。リハビリ学は目覚しく発展している。当院でも、末梢神経に刺激を与える新しいリハビリテーション法の採用を構想している。また、「ボトックス」という注射で末梢筋を弛緩させ、リハビリをしやすくするといった手法もあり、これら有用な手法を積極的に用いる予定である。

##### ● 委員

リハビリテーションでは、コ・メディカルのチーム対応が非常に重要になってくるが、スタッフの専門性に応じた教育研修プログラムはどうか。例えば、准看護師であれば、看護師へのステップアップや、また、嚥下に関する専門的な資格を取ることなどが挙げられる。また、外部教育機関からの実習受け入れや、共同研究や研修に取り組むといったことを考えておられるか。

##### ○ 開設者

当院にはリハビリのセラピストが十数名いる。外部研修については、神戸大学などと連携し、スキルアップを図りたい。看護師については奨学金制度があり、それを利用し看護学校を卒業した者が3名お

り、今後もレベルアップを図りたい。近隣教育機関からは、実習生が研修に来られており、今後も積極的に受け入れたい。

● 委員

神戸医療圏においても急性期直後の回復期施設が非常に不足しているため、非常に期待をしている。院内の急性期患者を回復期病床へ送る一方で、他の急性期病院からの患者も積極的に受け入れられるとのことだが、どれぐらいの割合で運用されるのか。

○ 開設者

当院から回復期リハビリテーション病院へ転院される患者数は、年間 60 人程度である。その後、約 2~3 ヶ月間リハビリされることを考えると、その倍以上の患者数に対応できると考えている。他の二次救急病院からも御紹介いただきたい。しかしながら、具体的な割合についてはまだ計算していない。

【(仮称) 安伸病院】

開設者より資料 6 の説明

● 副分科会長

病院開設後、整形外科の救急対応については、在来患者だけではなく、外来患者についてももしっかりご対応願いたい。

○ 開設者

現在も当院は、祝日、日曜日午前中の外来患者の往診を行っている。整形外科では開業医に多くの外来患者を迎える傾向があり、救急患者を引き受けてもすぐに手術を行うことは難しいが、病院となった暁には、少しずつでも必ず貢献したい。

● 委員

医師の間では、現在の安伸クリニックへの信頼度は高いと聞いている。当病院では手術室が満杯で、受け入れきれない患者が多いため、三次以外の患者に可能な限り対応いただくなど、役割分担の点で密に連携をとることで、大いに市全体の医療体制に貢献できると考えるのでお願いしたい。

● 委員

夜間の体制はどうなっているのか。

○ 開設者

現在は医師が当直している。看護師は病棟に二人体制である。経験ある常勤医はオンコール体制であり、特に手術後の患者には、施術者ならびに主治医が対応するような体制をとっている。

〔審議〕

〔医療法人神甲会隈病院について〕

● 分科会長

お認めすることでよろしいか。

(異議なし)

〔医療法人社団六心会 恒生病院〕

● 副分科会長

50 床とはかなり大きな数だが、看護師や、コメディカルの確保は大丈夫だろうか。

● 委員

今、病院にいる准看護師を、看護師に育てるようにもしていただきたい。

● 分科会長

そのあたりの意見を付記してお認めするということがよろしいか。

(異議なし)

〔安伸病院〕

● 委員

病院になるのに栄養士の記載がないが、大丈夫なのか。

○ 事務局

人材配置の部分等で問題がある場合、県の医務課で指導があろうかと思う。尚、39 床では栄養士の必置義務はない。

● 分科会長

安伸病院は承認でよろしいか。

(異議なし)

[今後の予定について、事務局から説明]

◎ 事務局

本日の3件について、当協議会の意見書、ならびに議事録については、事務局で文案作成し、分科会長、副分科会長の確認の上、本日出席委員に確認させていただいた上で、県に提出させていただく。

● 分科会長

それでは閉会とする。